

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～国際感覚を備えた新しい時代のリーダーを育てる学校をめざす～

1. 希望の進路実現に繋がる確かな学力を育む学校
2. 国際理解教育の推進を図り、自己表現力、コミュニケーション能力を身につけ、グローバル化の進む社会で活躍できる人材を育成する学校
3. 夢や目標にモチベーション高く向かい、リーダーとなりうる社会人基礎力を備えた人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基本的な学力の定着を礎に、進路実現を保障する確かな学力をつける。また、各教科の実践と検証に則り、教育課程委員会等を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として大幅な授業改善に取り組む。
※ICTの授業での活用を推進し、学習内容の理解度を向上する。
※各教科で教え方、使用する副教材（ICTの副教材やプリント等）の研究及び情報共有化を図り、クラス間のバラつきを減らし、高いレベルでの授業内容の統一化を進める。
※全ての科目の授業で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う機会を積極的に設ける。
※既習内容の記憶の定着を図るため、可能な限り、授業終了前3～5分間に既習事項確認の発話（ディスカッション）の時間を設ける。
※「使える英語プロジェクト」に取り組み、主体的に海外に発信する意欲と能力を育成する。
※土曜講習では5教科の補講を充実し、学力の底上げを図る。
※進路指導部・学年・教科等で密に連携し、年間計画に基づいた綿密な進路指導、学習指導を行う。
●学校教育自己診断「授業はわかりやすい」平成24年度47.9%を、→平成25年度53%、平成26年度58%、平成27年度63%を目標とする。
●授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的意見、平成24年度63%を、→平成25年度66%、平成26年度70%、平成27年度75%を目標とする。（25年度以降同類の質問）
●授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的意見、平成24年度68%を、→平成25年度71%、平成26年度74%、平成27年度77%を目標とする。
●英語検定準2級以上の合格者合計を、平成24年度51名を、→平成25年度60名、平成26年度65名、平成27年度70名を目標とする。

2 キャリア教育に基づく自己実現の支援

- (1) 自立した基本的生活習慣を確立する。
挨拶等の社会人としてのマナーや常識について徐々に伝え、規範意識や協調性を培い、遅刻や欠席を減らす。
※社会人としてのマナーや常識についての講話を実践する。（校長）
※社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
※生活指導部・学年・教科等で密に連携し、根本的な生活指導を綿密に行う。
●頭髪、服装、遅刻指導を徹底する。特に遅刻は平成17年度12640件だったものが著しく減少し、指導実績を上げてきているが、更に平成24年度1809件を、→平成25年度1750件、平成26年度1700件、平成27年度1650件と高い目標を設定する。
- (2) 学校行事や部活動、国際関連行事や語学研修を通し、成功体験、失敗体験から「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」を養成する。生徒が夢や志を持って自己の可能性を伸ばし、よりよい社会を創っていかうとする態度を育む。
※集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、自分の希望や都合よりも相手の立場や気持ちを優先できる「協調友愛（校訓）」の精神を培い、国籍を問わず、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。
※普通科、国際教養科の隔たりなく、国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外修学旅行などの国際交流に取り組む機会を支援する。
●部活動加入率（3学年平均）は平成24年度59.2%を、→平成25年度63%、平成26年度66%、平成27年度70%に伸ばすことを目標とする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上

- (1) 勉学、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、気持ちを一つにしてよりよい「旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。
※運営会議、職員会議などの充実を図り、合理的な校務分担体制を確立する。
※前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、学校改革に一丸となって取り組むよう努める。
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を捻出する。
※ICTを積極的に活用し、分掌の校務や教科準備など事務的作業の簡略化、授業準備の効率化を図る方法を提案、構築する。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。
※学校の特色やアピールポイントを再認識する。HPを充実させ、地域行事参加、学校（学習塾）訪問等、広報活動の範囲を広げる。
●広報活動の拡充を図り、訪問中学校数平成24年度108校を、→平成25年度124校、平成26年度130校、平成27年度135校にすることを目標とする。これに伴い、オープンスクール来校者数を徐々に増やし、25年度1300人を目標とする。（以降も徐々に増やすが、キャパシティの問題もあるので、数値目標は未定）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>【わかる授業、やる気を引き出す授業】</p> <p>ア、個人・教科としての指導目標設定と教科間での連携の徹底</p> <p>イ、学習の質量の向上</p>	<p>ア</p> <p>〈4～7月〉全教員の1年間の授業目標の明文化。進路実現のための学力保障、考える力・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める、リーダー育成、EFHS指定の取組み、ICTを活用した授業改善の可能性の模索。</p> <p>〈8月～11月〉教員相互の授業見学、教科毎のよりよい教授法の研究及び副教材（データやプリント）の教員同士の連携を持った作成研究。授業見学（校内、校外を問わず）と、その後の気づきや授業改善へのヒントを校内で共有できるシステムづくり。</p> <p>〈12月～3月〉学校教育自己診断等の結果、取組み者の自己評価による年間実践の振り返りと課題探索。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望等に関する校内アンケート、学力生活実態調査の実施結果の教員の共通理解と生徒へのフィードバック。 ・学習課題提供の工夫と学年毎の提供状況の把握と効果の検証、改善。 ・補習・講習の実施状況と効果の把握と改善。 ・相談体制の明示。 	<p>◎学校教育自己診断結果「授業はわかりやすい」</p> <p>平成24年度47.9%を5.1%増の53%にすることを目標とする。</p> <p>◎授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的意見、平成24年度63%を3%増の66%にすることを目標とする。 ・「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的意見、平成24年度68%を3%増の71%にすることを目標とする。 <p>◎英検準2級以上合格者数合計、平成24年度51名を9名増の60名にすることを目標とする。</p>	
キャリア教育に基づく自己実現の支援	<p>【自主自律・協調友愛（校訓）】を実践する学校</p> <p>ア、自立した生活習慣の確立</p> <p>イ、体験による「気づき」から学びを深める</p> <p>*成功体験、失敗体験、達成体験、克服体験など</p>	<p>ア</p> <p>生活指導部と学年との連携による指導方針の明確化と全教職員の実践。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・挨拶・制服指導の校内体制の強化。自転車事故未然防止への取組み。 <p>イ</p> <p>進路指導部と学年との連携による年間計画の周知（生徒、保護者、教職員）、実践結果の検討。部活動支援のための全教員協力体制の明確化。学期に1度各部の活動状況、生徒の様子を把握。</p> <p>ウ</p> <p>学校行事の充実。「使える英語プロジェクト」事業を活用した国際理解教育の実践。国際交流の充実。</p>	<p>◎遅刻者数（3学年合計）</p> <p>平成24年度年間1809件を59件減少の1750件にすることを目標とする。</p> <p>◎部活動加入率（3学年平均）</p> <p>平成24年度平均59.2%を3.8%増の63%にすることを目標とする。</p>	
学校の特色づくりと組織力の向上	<p>ア、戦略化の共通理解</p> <p>イ、ICT活用</p> <p>ウ、地域連携</p>	<p>ア</p> <p>課題取組みの組織化。</p> <p>〈4月～7月〉新チーム立ち上げ（例 将来構想委員会/ICT授業改善委員会/広報委員会など）</p> <p>〈8月～11月〉入試状況、学区撤廃など今後の再編整備の変化に対応する学校の将来像を検討。そのための喫緊の課題に取り組む。</p> <p>〈12月～3月〉25年度の取組みについての検証。改善点の把握と新しい取組み。</p> <p>イ</p> <p>校務処理ソフト使用の学校運営の確立と問題点の明確化。その改善に向けた取組み。ICT活用力（クリップボードなど）のための校内研修と校務の能率化。</p> <p>ウ</p> <p>広報活動の充実と拡大。</p> <p>旭区役所、旭警察署、地域コミュニティー等や近隣小学校や中学校との連携。学区撤廃を意識した広範囲の中学（学習塾）への広報活動。学校説明会やオープンスクールの際の資料精査。中学訪問の際に持参する資料の充実と統一した名刺作成。それぞれの分野に関して綿密に企画し、実施後のまとめや反省を校内で共有する。</p>	<p>新チームを構築する。</p> <p>年間を通して組織力の向上を図る。</p> <p>◎学区撤廃に対応した訪問中学範囲の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学訪問校数 <p>平成24年度108校を16校増の124校とし、オープンスクール来校者数1300人を目標とする。</p>	